

# 補聴器外来

耳鼻咽喉・頭頸科 准教授 金 隆澤

平成27年3月から毎週火曜日午前中に「補聴器外来」を開設いたしました。人体の中で耳と眼は感覚器として知られています。

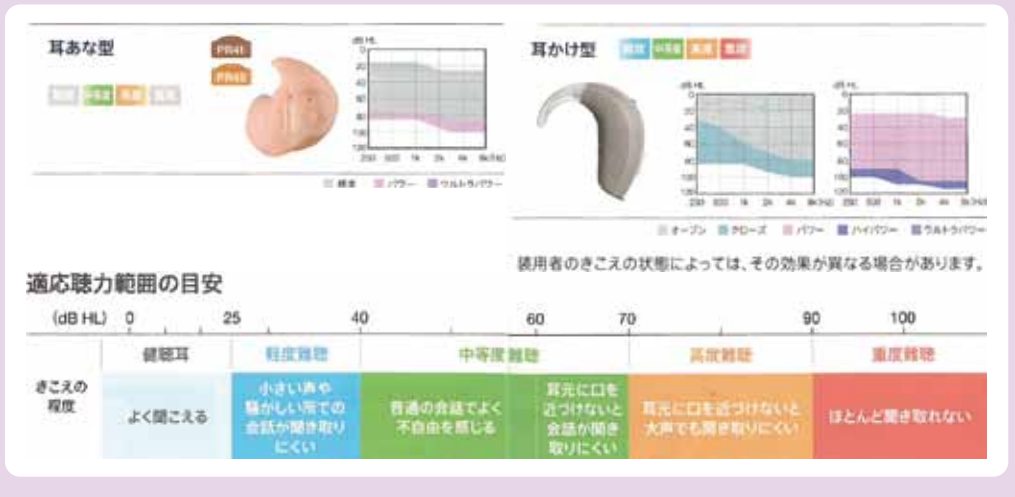
皆さんは視力が落ちたらすぐにメガネ屋さんに行って、メガネやコンタクトレンズを即日のうちに購入することも可能だと思います。しかし老年の方で聴力が徐々に悪くなっても「テレビの音は聞こえるが何を言っているか解かりづらくボリュームを大きくする」「雑音があると聞きづらい」「聞き返しが多く家族との会話がままならない」など、よほど困らないと相談に行かない、どこに相談に行っているのか分からない、安いから通販で買ったがただの集音器で自分には合わなかったので結局使っていない、ということをよく耳にします。他人のメガネをかけてもよくは見えません。耳も同様で、個々の適合検査が重要になります。補聴器はアナログから近年は調節能力の高いデジタルに進化し、安いものでも片耳10万円前後かかります。



准教授 金 隆澤

当科では難聴が器質的な病気ではなく、「老年性難聴」と診断してから、聴力検査と語音明瞭度検査(言葉の判別検査)を施行した後、補聴器を個人個人に合わせ調節し、無料で数回試して適合検査を繰り返した後に、自分に合っている、便利だと実感していただいたら購入するというシステムになっています。悩んでいる方はまず、当科の初診外来を受診した後に補聴器外来を予約しますのでご相談ください。

当科では難聴が器質的な病気ではなく、「老年性難聴」と診断してから、聴力検査と語音明瞭度検査(言葉の判別検査)を施行した後、補聴器を個人個人に合わせ調節し、無料で数回試して適合検査を繰り返した後に、自分に合っている、便利だと実感していただいたら購入するというシステムになっています。悩んでいる方はまず、当科の初診外来を受診した後に補聴器外来を予約しますのでご相談ください。



# 脳梗塞急性期の血栓回収療法

脳神経外科 前任准教授 菱井 誠人

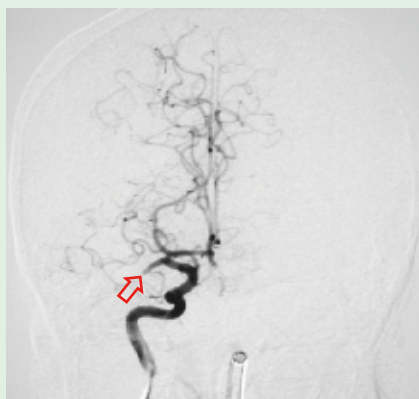
遺伝子組み換え組織型プラスミノゲンアクチベータ (rt-PA) という、脳の血管に詰まった血液の塊（血栓）を溶かす薬を点滴注射する治療法が脳梗塞急性期の画期的治療として 2005 年に日本でも開始され多くの患者さんが救われました。一方で脳の太い血管の血栓は溶けにくいなど、この治療法の限界も解ってきました。この様な問題を解決する治療法として血栓回収療法が注目されています。これはカテーテルと呼ばれる細い管を脳の血管に送り込み血栓を取り除く治療法です。専門性の高い技術を要する治療ではありますが、優れた治療成績が報告されるようになり国内の専門施設でも治療が開始されています。順天堂大学練馬病院でも効果的にまた安全に治療を行える可能性のある患者さんには積極的にこの治療を行っています。血栓がうまく取り除けても、時間がたって脳の細胞が死んでしまっただけでは脳の細胞は生き返りません。早く治療を始めることがとても大切です。片方の手足に力が入らない・感覚がおかしい、口が回らない・言葉が出ない、視野が欠ける・片方の目が見えないなどの脳梗塞を疑う症状が突然現れた場合は様子を見ることなく、できるだけ早くご相談いただくことをお勧めします。



前任准教授 菱井 誠人



血栓回収療法



治療前



治療後

